

昔話が語る子どもの成長

子どもは教えられたら一途に信じていく。私たち大人たちは今、同じ過ちをしていないだろうか、と問う小澤さん。私たちの生活の中でも「空気を読む」ということは日常的に見かける光景です。今年流行した「忖度」もそのひとつに入るのでしょうか。みんなが空気を読んでいたらまたあの戦争に向かった日本になる、と警鐘を鳴らし、「空気を読むな」とおっしゃる小澤さんに、昔ばなしから学ぶ子どもの成長についてお話ししていただきます。

子どもと私たちの未来の為に。

第1部 小澤俊夫さん講演

第2部 小児科医あべともこさんと対談

入場料 1000 円

高校生 500 円

中学生以下無料

2月11日(日・祝)

14:00~16:00

藤沢リラホール

小田急線・JR東海道本線藤沢駅徒歩3分
〒251-0025 藤沢市鵜沼石上1-1-15-5F



【略歴】小澤 俊夫さん

1930年、中国・長春生まれ。筑波大名誉教授。昔話や口承文芸を研究する私設研究機関「小澤昔ばなし研究所」所長。グリム童話の研究をはじめ、マックス・リュティの口承文芸理論を日本に紹介。92年から全国各地で「昔ばなし大学」を開講。川崎市多摩区在住。

※参加ご希望される方は、電話・Fax・メールにて

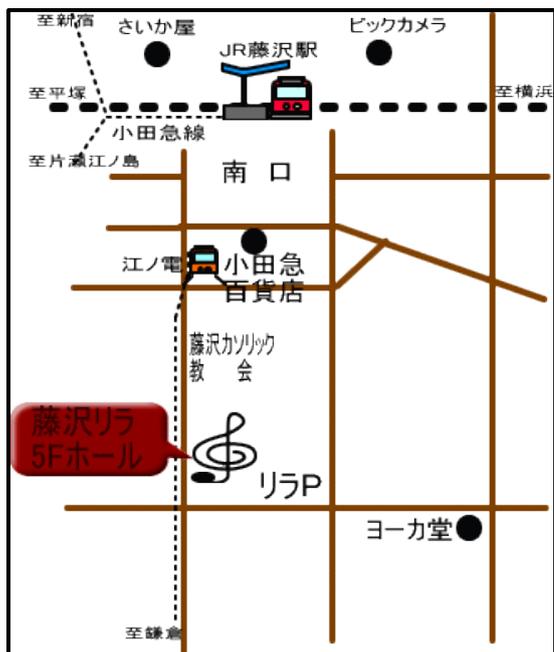
主催：フォーラム21 湘南 代表 生田恵久

お問い合わせ・ご予約：

電話/080-5039-8770 (担当:柳田)

メール/forum21shounan@gmail.com

Facebook/www.facebook.com/forum21shounan



「空気を読まず個であれ」

小澤俊夫

神奈川新聞 2017 年 10 月 15 日号より抜粋

危機は目の前に迫っている。僕は 2 月の講演会で、そう言いました。あれから半年以上がたつが、その不安は一層強まっている。僕は先の大戦を経験しているけれど、当時と今の社会の雰囲気非常に似ている。

戦中、個人は悪の象徴だった。戦後「個人はいいこと」となったけれど、いまそれが怪しくなっている。自己、自我を強く持つことを日本人は罪だと思っているのかもしれない。戦中、スカートをはいている女性がいすで足を組んでいたら『敵国主義』とされた。米国風で敵性の態度だ、と。

いま、どうだろうか。例えば、職場で堂々と「原発反対」と言えますか。口に出せなくなることが怖い。その雰囲気が恐ろしい。

「長いものに巻かれろ」という言葉がある。今風に言うと「空気を読め」。僕は「空気を読むな」といっている。そして自分の意見をはっきり言おう、と。みんなが空気を読んでいたら戦前、戦中の日本にたちまちなるよ。いまはその一歩手前だと思う。……車が坂道を転げだしたら止まらないように、社会も誤った方向に突き進んだらもう止まらない。いま、その坂道にかかる直前だと思う。

戦時中、平和や自由という言葉は絶対に言えなかった。絶対に。冷たく、息苦しい日本が敗戦によって自由になった。敗戦で人権をもらえた。でも、いま失ったら、もう二度と取り戻せない。あれだけの世界大戦があり、アジア太平洋戦争で 3 千万人のアジア人が亡くなり、そして日本は平和憲法を手にしたんだ。敗戦したことで獲得したんだ。それを失ったら、日本はもう回復しない。いま、本当にそういうことなのだと思う。

準備の都合上、できれば事前のご予約をお願いします♪
もちろん、当日参加も大歓迎です！



FAX:0466-52-2681

お名前

TEL

住所 〒